

関連項目：教育活動プラン ①、③、④

目的

人とつながる喜びを味わうー社会性を育てる縦割り班活動

小規模校では、人間関係が固定化しがちである。異年齢集団で清掃や体育活動（健康タイム）を行い、学年に応じた社会性と共に活動する楽しさや粘り強く取り組む心を育てたいと考えた。

内容

縦割り班活動

全校37名を4つの班に編成し、清掃活動・業間活動(健康タイム：月火週2回 10：10～10：25)や体育的行事（地区合同運動会演技）で班活動を取り入れている。本校「瀬居小のやくそく」の『下の学年お世話をする。上の学年の言うことを聞く』にも関連づけ、学年の役割や上級生の責任感や下級生の上級生への憧れの念の育成の場とする。縦割り班の編成は、前・後期2回である。

● 縦割り清掃 「分担は責任を持って」

清掃の分担場所には自分の頑張ることを書き込み、掲示することで互いの連帯感を高めている。だれがどの清掃を分担しているのか、把握することもでき、班担当の教師にとっても指導がしやすい。班編成が決まり清掃が始めると上級生が仕方を教える様子が見られる。清掃後の反省も班長である6年生が担っている。



<体育館外はお姉さんと>

● 健康タイム 「班で考えたコースで運動を楽しむ」

週2回、業間タイム（15分）を利用して運動種目に取り組んでいる。5月の運動会までは、演技種目の練習に取り組み、6月以降は器械運動やボールを使った運動や力試し運動（マラソン・相撲）を計画に基づき行ってきた。マラソンの練習と関連させた「クロスカントリー」は、高学年が考えたコースを班全員で準備し、健康タイムの運営を任すことで、班の連帯と高学年のリーダーシップを育てる取組となる。



<乗れない1年生を教える5年生>



<校庭のコースでクロスカントリー この班の工夫は砂袋運び>

● 健康タイム<挑戦> 「練習の成果を試すチャンピオン大会」

がんばりカードを使うのは、健康タイムの時間だけでなく体育の時間や休み時間も活用している。子どもの練習の成果を試す時間も健康タイムで行う。個人のがんばりを認める場であるが、班対抗で行う場を設定することで班の連帯感も高まる。単に運動技能を高めるだけでなく、「がんばりぬく心（耐性）」を育てる場となる。

成果

健康タイムは、運動を通じた異年齢のかかわりが大きい。当然、上級生の技能が高いので、低学年には良い手本となり頑張ろうとする意欲付けにもなっていた。特にクロスカントリーの取り組みでは、準備や片づけを行う高学年の様子を見て、自分たちもできることをしようとする低学年の自立心を育てることもつながっていった。そして、子どもが意欲的に取り組む活動には運動量の確保（計画性）と相互評価を常に取り入れ達成感を持たせる教師の意図的な働きかけが重要であると再認識した。